

高砂中央公園基本計畫 修正比較表

		パブリックコメント募集 計画図										修正 計画図											
コンセプト・ 基本的な考え方		コンセプト 新たな 交流の核となる “復興の杜” を創ろう										基本的な考え方 ・仙台の象徴の一つである「杜」を復興の象徴として創出します。(復興) ・交流を基軸にした地域社会の発展を目指し、その一翼を担います。(交流)											
計画平面図																							
計画の主要修正内容		円形の野球場を2面設けていた										野球場1面の形状変更に伴い、施設配置に余裕を持たせた。野球場1面は多目的広場と一体利用可能とした。水源を確保した上で、水景施設の導入を図ることとした。											
主要施設の規模 総面積：14.5ha ※ビツ色網掛:変更増, 水色網掛:変更減		野球場	駐車場	多目的 広場	(ディキャ ンプ場)	テニス コート	エントラ ンス広場	パーク ゴルフ場	樹林地 植栽地	水族館 用地	その他 (園路等)	野球場	駐車場	多目的 広場	(ディキャ ンプ場)	テニス コート	エントラ ンス広場	パーク ゴルフ場	樹林地 植栽地	水族館 用地	その他 (園路等)		
		2.91ha (2面)	2.10ha (822台)	1.44ha	(0.24ha) (多目的広場 に含む)	0.68ha (6面+2面)	0.70ha	0.66ha (9ホール)	3.04ha	1.35ha	1.62ha	2.56ha (2面分)	2.06ha (803台)	1.45ha (野球場2を除く)	(0.24ha) (多目的広場 に含む)	0.67ha (2面x4)	0.75ha	0.66ha (9ホール)	3.06ha	1.35ha	1.94ha		
「第65回杜の都の 環境をつくる審議 会」での意見等と その対応について		審 議 会 に お け る 意 見 等										事務局の対応の方向性（案）											
		全体計画	・3つの目的を充足する段階的・戦略的な整備方針を示してほしい。										⇒	・全体計画として、総合公園の整備自体や市民による復興植樹計画等による「復興の表出」、運動施設の整備や背後地の他施設との連携による多様な「交流」の創出、水族館や高台の避難、オープンスペースの確保などの「防災」機能の充実を図ることとしている。また、今後の改修等も踏まえた戦略を持ち、水族館周辺からの段階的整備を進める。									
		導入施設	・水族館、野球場、テニスコートなど、利用目的がいくつかに分かれている。水族館に行き、ついでに森に行くなど、公園で一日楽しむ計画が良いのでは。 ・軟式野球場やテニスコートを風の強いところに作る必要はないのでは。										⇒	・東部地区の復興を推進するための水族館を誘致したことや、市民や地元の要望を踏まえ、多様な施設を導入している。									
		施設配置	・体育施設が盛りだくさんになり、緑地帯や芝生広場などの公園らしいところが少ない。 ・野球場はスケールオーバーである。 ・競争力のある水族館にするためには、バックヤードと7年に一度の改修で決まるため、用地は十分配慮した戦略的な配置を考えるべき。 ・パークゴルフ場を水族館の近くに設置して、子供や高齢者が自由に遊べるエリアと運動施設を分ければ、広がりが出て、避難にも良い。 ・水族館に行く人が駐車場の一番端に停めた場合、遠すぎる。 ・駐車場、利用施設、水族館を全部吸収するのは難しいが、意見を踏まえ図面を修正すべき。										⇒	・野球場のうち1面を形状を円形から一般的な形状に変更することにより占有面積を減少させ、水族館を含め、導入施設の配置に余裕を持たせ、その分、積極的に樹林地や緑地等を配置している。 ・野球場のうち1面は、多目的広場と一体的に利用できるよう計画に変更している。 ・駐車場については、誘導員の配置等により、水族館とその他施設利用者の駐車位置を振り分けるなど対応したい。									
		防災機能	・水族館を万が一の避難施設としているが、水族館側と調整し、避難場所であることを明示すべき。 ・工場、観光客、住宅地の人々が、どのように協働で防災機能を発揮していくかを考えるべき。 ・このエリアは復興の象徴であり、公園施設が災害時には支援施設に代わることを十分検討すべき。 ・避難時にクラブハウスだけでは、運ばれてきた物資は保管できない。										⇒	・本公園は東日本大震災の津波により浸水し、津波シミュレーションでは2m程度の浸水区域となるが、東部道路より西側に避難することで安全が確保できるため、区域からの退避を第一としている。 ・諸般の理由で逃げ遅れた場合にも避難できるよう、水族館が津波避難ビルとなるよう事業者と調整しており、また公園西部に高台を造成する計画とし、また管理者やサインによる誘導を計画している。 ・災害が落ち着いた後は、様々な復旧支援の場として活用できるよう、十分なオープンスペースを取れる施設配置としている。									
環境 づくり	・水族館の近くに水辺林を作って淡水を流し、子供が安全に遊べる場所を整備してはどうか。海岸に近いので防災的、教育的な配慮を促すような生の展示物ができるのでは。 ・市民が憩えて、ジョギングや親子連れが歩けるような樹林地帯や小川のある公園にしてはどうか。 ・敷地の縁に木をたくさん植えるだけでなく、杜自体が公園の主体という視点で図面を見直すべき。										⇒	・東部地域の緑の拠点という位置付けを踏まえ、植栽計画にあたっては、居久根や湿地性の樹種の導入等、生物多様性に配慮したものとし、また配植については、市民利用等を考慮した計画としたい。 ・水景施設については、水族館に近接して、池と流れをつくり、エントランス広場まで導水する計画に変更している。											